

静岡県立総合病院 消化器外科専門研修プログラム

1. 静岡県立総合病院消化器外科専門研修プログラムについて

当院は人口 67 万人の静岡市の市街地北部に位置し、近隣の志太榛原地区、富士医療圏からも患者を引き受ける地域がん診療連携拠点病院である。高難易度手術、救急医療、一般外科を含む多くの手術件数があり、食道・胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、腹部ヘルニア科の各グループに分かれた専門的な治療を行い、多くの指導医のもとで消化器外科専門医研修を行うことが可能である。また、指導医は様々な大学医局からの派遣に加え、多くの大学医局に属さない医師で構成されており、特定の大学医局に所属せずに消化器外科専門医を取得することが可能である。

2. プログラムの到達目標

- 1) 消化器外科医として一般的な消化器疾患に関する診断・治療能力を習得すること
- 2) 上記に関する、知識・技能・倫理観を備えることにより、包括的かつ高度な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者・社会への責任を果たせる消化器外科専門医になること
- 3) 消化器外科の発展に寄与する、研究遂行、学会発表、論文執筆能力を有すること
- 4) 患者より信頼され、全人的医療を行えるコミュニケーション能力を身に着けること
- 5) チーム医療における役割分担やリーダーシップを身に着けること
- 6) 医療行政、医療経済を理解し、社会全体を俯瞰した医療を提供できる能力を身に着けること

3. 応募資格

- ・日本外科学会外科専門医取得者または取得見込の者
- ・静岡県医学修学研修資金の被貸与者の応募も可能であるが、勤務病院、勤務期間については県との調整を要する。

4. 施設認定

- ・日本外科学会 修練施設（指定施設）
- ・日本消化器外科学会 修練施設
- ・日本消化器病学会 認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会 指導施設
- ・日本食道学会 食道外科専門医認定施設
- ・日本大腸肛門病学会 認定施設
- ・日本肝胆膵外科学会 修練施設 A

- 日本胆道学会 指導施設
- 日本がん治療認定医機構 認定研修施設
- 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設
- 日本胃癌学会 認定施設 A

5. 指導体制（2026 年 9 月 1 日現在）

日本外科学会指導医 4 名（金本秀行、佐藤真輔、西田正人、松本知拓）

日本消化器外科学会指導医 5 名（金本秀行、佐藤真輔、瀧雄介、間浩之、高木哲彦）

日本内視鏡外科学会技術認定医 8 名（佐藤真輔、西田正人、瀧雄介、永井恵里奈、間浩之、大島健志、松本知拓、小井土耕平）

日本内視鏡外科学会ロボット支援手術認定プロクター 6 名（金本秀行、佐藤真輔、間浩之、大島健志、高木哲彦、小井土耕平）

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 1 名（金本秀行）

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医 4 名（高木哲彦、戸田健夫、徳田智史、三浦勇也）

日本食道学会食道外科専門医 1 名（佐藤真輔）

6. 到達目標

日本消化器外科学会消化器外科専門医修練カリキュラムに準じ、「指導医の下でそれぞれの領域の標準的外科診療を主体的に実践できる医師」を到達目標とする。そのために各領域のローテートにて、多くの手術の術者または助手を経験し技術を磨き、様々な疾患を担当することで周術期管理の経験を積み、手術以外の癌に対する緩和治療、保存的治療について経験を深め、各種検査を行うことで診断技術の向上を目指したプログラムを提供する。

手術経験については、消化器外科専門医修練カリキュラムに規定されている下記の手術経験が積めるプログラムを提供する。

- ・手術難易度区分表に規定された術式 300 例以上の手術経験
- ・術者として 50 例以上の手術経験、そのうち中・高難度手術から 20 例以上
- ・下表の必須経験手術

手術名	経験例数	術者指定
食道癌の手術	3 例	すべて助手でも可
胃癌の手術	10 例	術者 5 例以上を含む
結腸癌の手術	10 例	術者 5 例以上を含む
直腸癌の手術	5 例	すべて助手でも可
膵頭十二指腸切除術	5 例	すべて助手でも可
肝切除術	5 例	すべて助手でも可
腹腔鏡下胆嚢摘出術	10 例	術者 5 例以上を含む

腸閉塞の手術	5 例	術者 3 例以上を含む
急性汎発性腹膜炎の手術	5 例	術者 3 例以上を含む

学術的には、ガイドラインや最新の臨床試験などの進歩に合わせた知識・技術を継続して学習し、筆頭著者として最低年 1 回の学会発表、2 年に 1 篇の論文発表などの経験を通して、自主学習能力を身に着ける。発表を伴わない学会参加についても可及的に希望に応じる。国内学会の交通費、宿泊費は病院より支払われる。海外での国際学会においても発表者は年 1 回を限度に出張費が病院より支払われる。

7. 研修プログラム

初年度は消化器外科内の食道・胃外科、大腸外科、肝胆膵外科の 3 グループをローテートする。2 年目以降は、希望に応じて上記グループの一つに固定して専門研修を積みことや、消化器内科、腫瘍内科、病理診断科、放射線科、臨床検査科（感染症科）をローテートすることも可能である。プログラム開始後、5 年間は本研修プログラムを提供する。

研修の初期段階に指導医との面談を通して、ローテート方針、必須手術経験方針、学会発表計画、論文執筆計画を立てる。

当院の専攻医、研修医師は、地方会、全国学会などで多くの学会発表を行っており、上級医の指導の下、海外での国際学会での発表実績もあり、希望に応じて学会発表の機会を提供する。

また、学位取得希望者は当院に籍を置きながら、慶應義塾大学大学院医学研究科へ修学する制度もある。本制度では、修学期間中の入学金、学費等の貸付があり、貸付期間の 2 分の 1 の期間以上を県立病院機構で勤務した場合、返還が免除される。その他、当院の職務免除制度を利用して社会人大学院に通学し医学博士の学位を取得した医師や、勤務を続けながら隣接する静岡社会健康医学大学院の公衆衛生学修士を取った医師もいる。プログラム初期からの大学院への入学は時間的制約のため困難であるが、学位取得希望者はプログラムの後半から指導医との相談の上、大学院等への入学を検討する。

研修計画の一例（斜体は学術活動）

一般消化器外科希望の場合

	4 月	10 月	3 月
1 年目			
	食道・胃外科(4 ヶ月)	大腸外科(4 ヶ月)	肝胆膵外科(4 ヶ月)
	消化器外科学会参加		地方会発表
2 年目			
	消化器内科(1 ヶ月)	大腸外科(10 ヶ月)	
	病理診断科(1 ヶ月)		
	症例報告執筆	日本臨床外科学会発表	
3 年目			
	肝胆膵外科(10 ヶ月)		
	腫瘍内科 (4 ヶ月)	内視鏡外科学会発表	
	消化器外科学会発表		原著論文執筆
4 年目			
	食道・胃外科(10 ヶ月)		
	消化器外科専門医申請	専門医試験	
			合格発表

大腸外科専門医希望の場合

	4 月	10 月	3 月
1 年目			
	食道・胃外科(4 ヶ月)	大腸外科(4 ヶ月)	肝胆膵外科(4 ヶ月)
	消化器外科学会参加		地方会発表
2 年目			
	感染症科(1 ヶ月)	大腸外科(10 ヶ月)	
	消化器内科(1 ヶ月)		
	症例報告執筆	日本臨床外科学会発表	
3 年目			
	大腸外科(12 ヶ月)		
	消化器外科学会発表	内視鏡外科学会発表	
		原著論文執筆	
4 年目			
	大腸外科(12 ヶ月)		
	消化器外科専門医申請	専門医試験	
			合格発表

静岡県医学修学研修資金被貸与者の場合

	4 月	10 月	3 月
1 年目			
	県立総合病院		
	食道・胃外科(4 ヶ月) 大腸外科(4 ヶ月) 肝胆膵外科(4 ヶ月)		
	消化器外科学会参加		地方会発表
2 年目			
	県立総合病院		
	消化器内科(2 ヶ月) 大腸外科(5 ヶ月) 食道・胃外科(5 ヶ月)		
	症例報告執筆		日本臨床外科学会発表
3 年目			
	静岡県内日本消化器外科学会認定施設 (県指定)		
	消化器外科学会発表		内視鏡外科学会発表
	原著論文執筆		
4 年目			
	静岡県内日本消化器外科学会認定施設 (県指定)		
	消化器外科専門医申請		専門医試験
	合格発表		

手術実績

当院は厚生労働省より、地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定を受け、高難度を含む消化器外科手術を多く行っている。主な治療対象は、食道癌、胃癌、十二指腸癌、結腸癌、直腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌、GIST、胆石症、鼠経ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニアなどである。最新の手術実績についてはホームページで公表している。<http://www.shizuoka-pho.jp/sogo/medical-department/surgery/index.html>

また、高度救命救急センターを併設し近隣医療機関より多くの内科的、外科的な救急患者を引き受け、汎発性腹膜炎、絞扼性腸閉塞、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、非閉塞性腸間虚血（NOMI）、腹部外傷などの手術も多く行っている。さらに総合病院であり心血管疾患や血液透析を要する腎不全などの併存症を有する患者についても積極的に引き受けており、併存症を有する患者の周術期管理の研修にも適している。

8. 学術活動

当院は、論文執筆、学会発表などの学術活動も積極的に行っており、過去の業績は上記ホームページで公開している。これまで専攻医の原著論文、初期研修医の、和文または英文での症例報告の実績もあり、論文の指導体制も整っている。食道・胃外科、肝胆

膵外科は日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) のメンバーでもあり、希望があれば班会議の参加も可能である。

病院としては、医学研究奨励事業として案件により 50 万円までの研究助成を行っており、専攻医でも応募可能である。また、隣接する静岡社会健康医学大学院大学では医療統計家が在籍しており、必要に応じて相談が可能である。

9. 研修生活

担当症例の手術、病棟管理、外来業務、カンファレンス（週 3 回程度）、消化器外科オンコール（4-6 日/月）、病棟オンコール、病院当直（約 1-2 回/月）などの業務がある。夜間、休日はオンコール制となっており、時間外勤務は年 960 時間以内になるよう配慮している。

勤務時間内における兼業については、原則禁止されており、勤務時間外における兼業は病院長の許可を要する。

また、有給休暇、配偶者出産休暇、育児参加休暇、家族休暇（子の学校行事、職務に関連する教養活動など）、育児休業（男女とも）などの積極的な利用を促している。育児休業などの長期休暇の際にはオンコールを含むすべての業務が免除される。

10. 進路

消化器外科専門医取得後は、内視鏡外科学会技術認定医や肝胆膵外科学会高度技能医の取得希望があれば当院での継続した修練などの相談に応じる。また、ふじのくに外科専門研修プログラムの病院群や静岡がんセンターなどの県内の医療機関への就職の希望があれば、当院の人脈を通じ積極的に協力する。

11. 募集人数

各年度 2-3 名程度

12. 応募方法、採用方法

見学希望者、応募希望者は、下記まで連絡すること。見学希望者の交通費については当院より支給する。

静岡県立総合病院 総務課人材係 054-247-6111（代表）

E-mail : sougou-soumu@shizuoka-pho.jp

2026 年 9 月 17 日 作成版